

安楽寺だより 第10号

〒105-0014 東京都港区芝1丁目12-18 電話：03-3451-1509 FAX：03-3798-2238

発行者：藤澤 克己（安楽寺住職） ホームページ：<http://homepage2.nifty.com/anrakuji>

また新しい季節が巡ってきました

長かった冬もようやく過ぎ去り、春らしい日がこのところ続いています。みなさま、いかがお過ごしでしょうか。

「冬来たりなば春遠からじ」という言葉があります。寒くて辛い冬のあとに暖かい春が必ずやってくるように、人生において今は辛く苦しかったとしても、やがて明るく幸せなときが巡ってくる、という喩え話に使われることもあります。



(安楽寺境内
で咲いた鉢
植えの桜)



◇◇

しかし、東日本大震災で痛ましい経験をした方々がいまだに苦しんでいるという話を聞くにつけ、そんな捉え方が本当にできるのだろうかという疑問を感じても不思議ではありません。

ただ、確かに樂觀できない現実が目前にあったとしても、それでも知らず知らずのうちに状況は必ず移り変わっていくものではないでしょうか。

季節の変わり目に思いを巡らせてみました。みなさんはどうお考えでしょうか

《あれこれ抄》

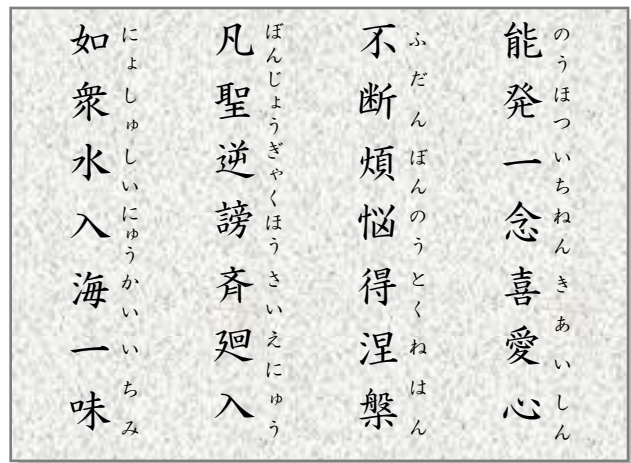
▼春のお彼岸には多くの方にお参りいただきました▽この時期の墓地は色とりどりの花がいっぱい優しい気持ちになります。▼今年「春一番」がなかったそうです▽立春から春分の日（お彼岸のお中日）までに強い南風が吹き、気温の上昇があることが「春一番」と宣言できる条件とのこと▽今年春の訪れが例年より少し遅いようです。▼新年度・新学期が始まり、清々しい気持ちで臨んでいることでしょうか▽「初心忘るべからず」という言葉があるように、初々しい気持ちをいつも忘れないで過ごしたいものです。▼住職は今月六日に誕生日を迎え五十一歳となりました▽まだまだご恩返しをしなければなりませんので、健康に留意しつつ励みたいと思います。

春の彼岸会法要をお勤めしました

3月20日、お彼岸のお中日に春の彼岸会法要をお勤めしました。

まず、みんなで「正信偈（正信念仏偈）」を大きな声で唱えました。

続いて、「正信偈を味わう」と題して少しずつ学び合う時間を持ちました。経本の1頁に書かれたお言葉を取り上げその意味を確認し、お経の「心」に少しでも触れることができたと思います。



「正信偈を味わう」では、この頁のお言葉を読み合わせ、意味と“心”を確認しました。

「一念に弥陀の本願を信じ喜ぶ心があるならば／烦恼を断たないままで涅槃を得ることができる／凡夫も聖者も極悪の人でも平等に救われる様子は／（色々な味の）川の水が海に入ると一味（混ざり合って同じ味）になるのと似ている」という意味です。

秋の彼岸会要（9月22日）では、この続きを読み合わせます。関心のある方は、ぜひ予定に入れておいてください。



久しぶりの方や初めての方がお中日の彼岸会法要にお参りくださいました。

「定例法話会」を始めました



4月15日（日）に第1回の定例法話会を開催しました。

開催告知が急だったため参加いただいた方の数はあまり多くありませんでしたが、熱心にご聴聞いただきました。ありがとうございます。

【定例法話会の今後の予定】

- 5月20日（日）午後3時～
- 6月17日（日）午後3時～
- 7月15日（日）午後3時～

毎月第3日曜日に定期開催しますので、ぜひご都合をつけてお越しください。

仏教の叡智に触れ、浄土真宗のみ教えに親しんでいただきたいと願っています。

永代経法要のご案内

来る5月10日は安楽寺の大切な行事の1つである「永代経法要」をお勤めします。永代に渡って浄土真宗のみ教えを大切にしていこうと気持ちを新たにするご法縁です。どうぞお参りください。

日 時：5月10日（木）午後1時～

お勤め：仏説阿弥陀経

ご法話：赤川浄友師 *（本願寺布教使）

* 住職の長年の友人であり、“笑い療法士”
という資格を持つ明るい布教使さんです。

※初めてお参りする方も歓迎いたします。

お齋（おとき・お食事）の用意があります
ので、少し早めにお出かけください。

東北の被災地に行ってきました

1月と3月にそれぞれ数日間、岩手県の被災地（大槌町）に赴きました。滞在中はおもに仮設住宅を訪問し、居住者の安否を確認する活動に携わりました。

来訪者と話すのを楽しみに待っている方もいれば、そっとしておいてもらいたいと面会を嫌がる方もいらっしゃいます。誰もが複雑な心境を抱えていらっしゃいました。



3月11日にはかねてから親交のあった吉祥寺で行われた東日本大震災一周忌法要に出仕させていただきました。地元の方が1000人以上も参列する盛大な法要でした。故人を偲び、悲しみを分かち合い、改めて“平凡な日常”のありがたさを確かめ合う機縁となりました。



吉里吉里地区にある吉祥寺（曹洞宗）の本堂には身元不明の遺骨32体が祀られました。

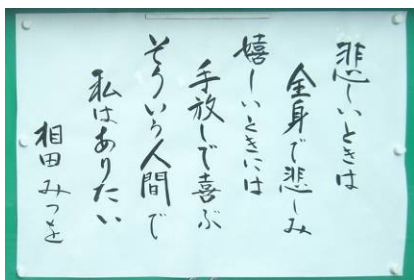
←岩手県大槌町の市街地の様子（3月）。復興にはまだまだ時間が掛りそうです。

吉里吉里海岸での海岸供養（献花・読経）をするため、お寺から海岸までお経を唱えながら行脚しました。（点線で囲ったのが住職）

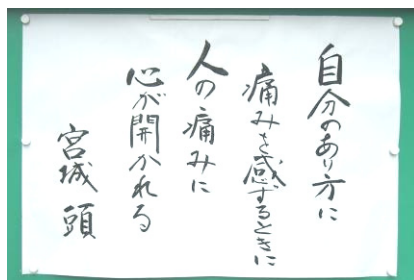


月々の言葉 ～安楽寺 伝道掲示板から～

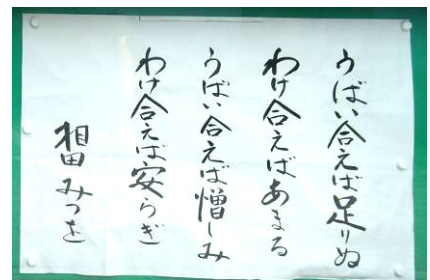
お寺の入り口に、その時々のお寺の言葉を掲げています。(1か月毎)



2012年2月



2012年3月



2012年4月

住職の自死対策活動

自死(自殺)対策という“生きる支援”に住職は取り組んでいます。

自死対策というと、死にたいと思う人を留めることだと思われがちですが、実際はそうではありません。

生きていくことが出来ないほど辛いと思えてしまうその気持ちに寄り添いながら、生きていくための道筋を一緒になって考えようとする“生きる支援”だからです。

※生きていくことが辛いと思っている人のお力に少しでもなればと思っています。まずご一報ください。一緒に考えさせていただきます。

誰にでも「今すぐできる」3つのことをまとめてみました。

誰にでも「今すぐできる」こと

1. 関心を持つ
2. 感情に寄り添う
(気持ちをそのまま受け入れる)
3. 一緒になって考える

辛い思いを抱えた人に関心を持ち、感情に寄り添い、一緒になって考える人がいるというのは、自死に関係ないと思っている人にとっても“生き心地の良い社会”であるに違いありません。

テレビ朝日「やじうまテレビ！」に住職と仲間の僧侶が登場します！

「そっと後押し きょうの説法」

毎週(月)(火)(水)(木)

午前5時43分頃～ 約3分間

※よろしければご覧ください。

◇◇

昨年4月から続いているコーナーが週1日増えて今年も継続することになったのは、ありがたいことです。住職は4月の(月)を担当しています。



花まつり(お釈迦様の誕生日)にちなんだ話をさせていただきました。私たちは小さいけれど「大いなる流れを作る、かけがえない“いのち”」。(4月9日の放送より)